

(1) 出題される課題

課 題	減 点 事 項	減点数
1. 圧縮等、装填、射撃姿勢	○圧縮操作等、装填、射撃姿勢ができない場合	31
	○圧縮操作等、装填、射撃姿勢が円滑でない場合	10
	○銃口を人に向けた場合	10
	○各操作を行う際に、実包の有無、銃腔内の異物の有無を確認しない場合	5
	○用心鉄の中に指を入れた場合	5
(1) 圧縮等操作 ポンプ式、スプリング式もしくは プリチャージ式模造空気銃を 用いた圧縮操作又は圧縮ガ ス式模造空気銃を用いたボ ンベの取り付け動作を行わせ る	○圧縮操作等が不確実な場合	5
	○圧縮操作等が粗暴な場合	5
(2) 装填操作 弾丸を装填する姿勢をとらせ る	○装填する動作が不確実な場合	5
(3) 射撃姿勢操作 射撃姿勢をとらせる	○水平射撃の姿勢をとった場合	5
	○不安定な射撃姿勢をとった場合	5
(4) 脱包操作 弾丸を取り出す動作をさせる	○脱包する動作が不確実な場合	5
(5) 圧抜き操作 圧縮された空気を抜く動作を させる	○銃口を下以外に向けて動作した場合 この動作の時のみ用心鉄の中に指を入れて良い	5
(6) 銃器の安置動作 銃器を置くことを行わせる	○銃器を置く動作が粗暴な場合	5
	○装填部を開放し見えるように置かない場合	5

(2) 試験の実施方法

技能試験に使用する銃器は、模造空気銃。

通常は、スプリングまたはポンプ式空気銃が用意されていることが多い。

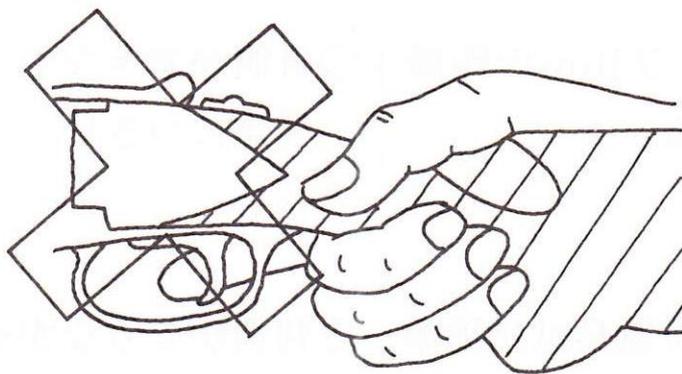
また、試験に使用される銃器は銃口が塞いである模造銃なので、異物の確認などはポーズを真似して行うだけになる。

(3) 対応ポイント

銃器を手にしたときは、実包や異物の有無の確認をする、銃口を人には向けない、銃器を置いたり手渡したりするときも実包や異物の有無を確認して薬室を開放する、用心鉄の中に指を入れない、銃器を粗暴に扱わない、などの銃器の操作の際の基本的な原則を守ることが大事である。

① 全体を通して

- 用心鉄の中に指を入れないこと



- 銃口を人に向けないこと



○動作の始めと終わりに、「実包、銃腔内の異物の有無」をかくにんすること



② 空気銃等の圧縮

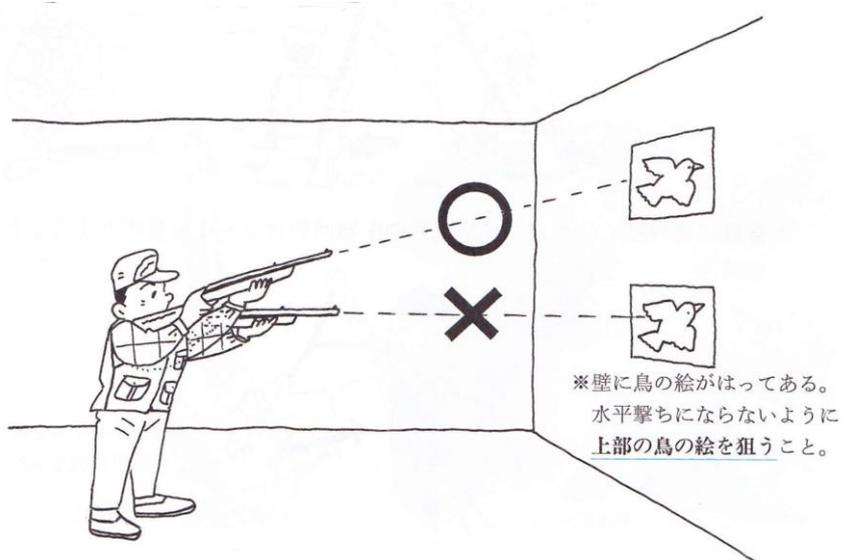
○ポンプ式の圧縮回数は3～4回程度とすること



※プリチャージ式空気銃も説明に使用される場合がある。

③ 装填・射撃姿勢・脱包

○水平うちの射撃姿勢をとらないこと

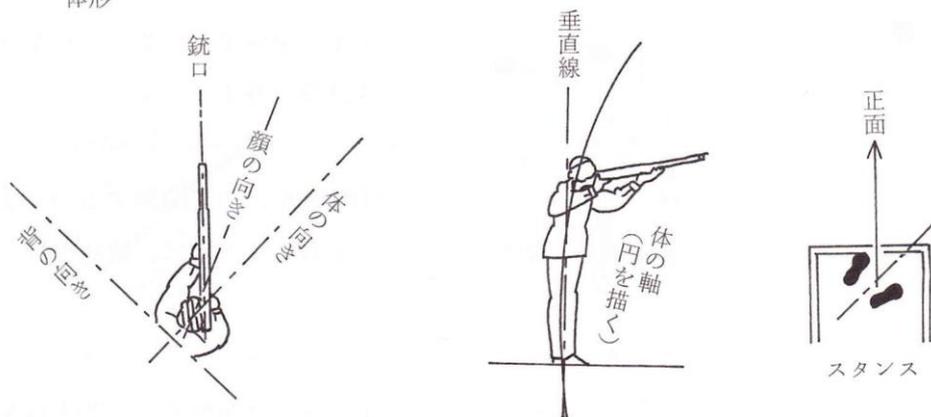


(2) 銃の持ち方

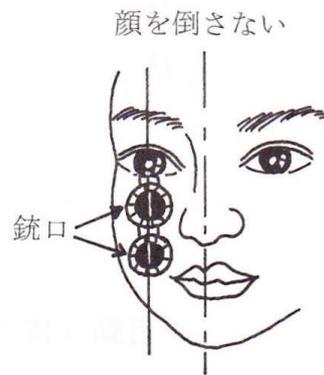
① 構え方

(体型)

体形



(肩付け、頬付け)



(グリップ)



※試験の時は、引鉄に指をかけない
ように注意すること。



左グリップ